

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年9月27日
【事業年度】	第6期(自平成23年7月1日至平成24年6月30日)
【会社名】	あいホールディングス株式会社
【英訳名】	Ai Holdings Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 佐々木 秀吉
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋久松町12番8号
【電話番号】	03(3249)6335(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 唐崎 英明
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋久松町12番8号
【電話番号】	03(3249)6335(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 唐崎 英明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第2期 平成20年6月	第3期 平成21年6月	第4期 平成22年6月	第5期 平成23年6月	第6期 平成24年6月
売上高(百万円)	23,674	23,308	25,855	26,006	28,156
経常利益	1,934	2,076	2,915	3,462	3,970
当期純利益(百万円)	609	966	2,132	2,254	2,406
包括利益(百万円)	-	-	-	2,497	2,380
純資産額(百万円)	20,507	20,205	21,186	22,759	20,763
総資産額(百万円)	29,261	27,906	29,846	31,814	29,772
1株当たり純資産額(円)	373.55	368.06	385.95	415.93	438.38
1株当たり当期純利益金額 (円)	11.10	17.60	38.85	41.16	44.74
潜在株式調整後1株当たり当期 純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	70.1	72.4	71.0	71.5	69.7
自己資本利益率(%)	2.9	4.7	10.3	10.3	11.1
株価収益率(倍)	50.3	19.2	7.6	8.0	9.7
営業活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	37	2,601	3,598	4,019	3,803
投資活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	124	2,014	130	138	425
財務活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	1,029	1,287	1,053	996	4,458
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	4,818	4,103	6,747	9,874	8,784
従業員数(人)	772	1,041	1,002	1,000	1,003

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第2期 平成20年6月	第3期 平成21年6月	第4期 平成22年6月	第5期 平成23年6月	第6期 平成24年6月
営業収益(百万円)	2,064	1,707	2,249	2,478	2,263
経常利益(百万円)	1,679	1,315	1,886	2,031	1,879
当期純利益(百万円)	1,582	1,259	1,806	1,979	1,796
資本金(百万円)	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
発行済株式総数(千株)	56,590	56,590	56,590	56,590	56,590
純資産額(百万円)	20,640	20,689	21,413	22,658	20,120
総資産額(百万円)	22,947	23,834	23,858	23,806	23,224
1株当たり純資産額(円)	375.98	376.88	390.09	414.09	424.79
1株当たり配当額(円)	20.00	20.00	16.00	16.00	16.00
(うち1株当たり中間配当額)	(10.00)	(10.00)	(8.00)	(8.00)	(8.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	28.48	22.94	32.91	36.15	33.39
潜在株式調整後1株当たり当期 純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	89.9	86.8	89.8	95.2	86.6
自己資本利益率(%)	7.6	6.1	8.6	9.0	8.4
株価収益率(倍)	19.6	14.7	9.0	9.1	12.9
配当性向(%)	70.2	87.2	48.6	44.3	47.9
従業員数(人)	10	17	17	35	33

(注) 1. 営業収益には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

## 2【沿革】

平成18年12月	株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス及びグラフィック株式会社が、株主総会及び関係官庁の承認を前提として、株式移転により共同で持株会社（当社）を設立し、株式移転計画を作成することにつき取締役会で決議し、同計画書を締結。
平成19年2月	株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス及びグラフィック株式会社の株主総会において、両社が共同で株式移転の方法により当社を設立し、両社が完全子会社となることについて承認決議。
平成19年4月	当社設立。 東京証券取引所市場第一部へ株式上場。
平成19年7月	株式会社U S T A G Eの株式66.7%を第三者割当増資の引受けにより取得し、当社の子会社とする。
平成20年6月	株式会社ユー・エス・ケーの株式44.4%を第三者割当増資の引受けにより取得し、当社の関係会社とする。
平成20年7月	株式会社ニューロンの株式100%を取得し、当社の子会社とする。また、株式会社ニューロンの100%子会社であるNEURON ELECTRONICS INC. についても当社の子会社とする。
平成21年1月	株式会社塩見設計の株式100%を取得し、当社の子会社とする。
平成21年2月	株式会社塩見設計が構造設計、耐震診断・補強設計及び建築設計事業を譲受け、設計事業を開始。
平成21年7月	あいエンジニアリング株式会社を設立。
平成21年9月	Silhouette America, Inc. を設立。
平成22年7月	株式会社塩見設計が商号を株式会社あい設計に変更。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（あいホールディングス株式会社）と当社の子会社15社（連結子会社14社、非連結子会社1社）及び当社の持分法適用関連会社1社により構成されており、セキュリティ機器、カード機器及びその他事務用機器、保守サービス、情報機器、計測機器及び環境試験装置、設計事業、リース及び割賦事業を主たる業務としております。

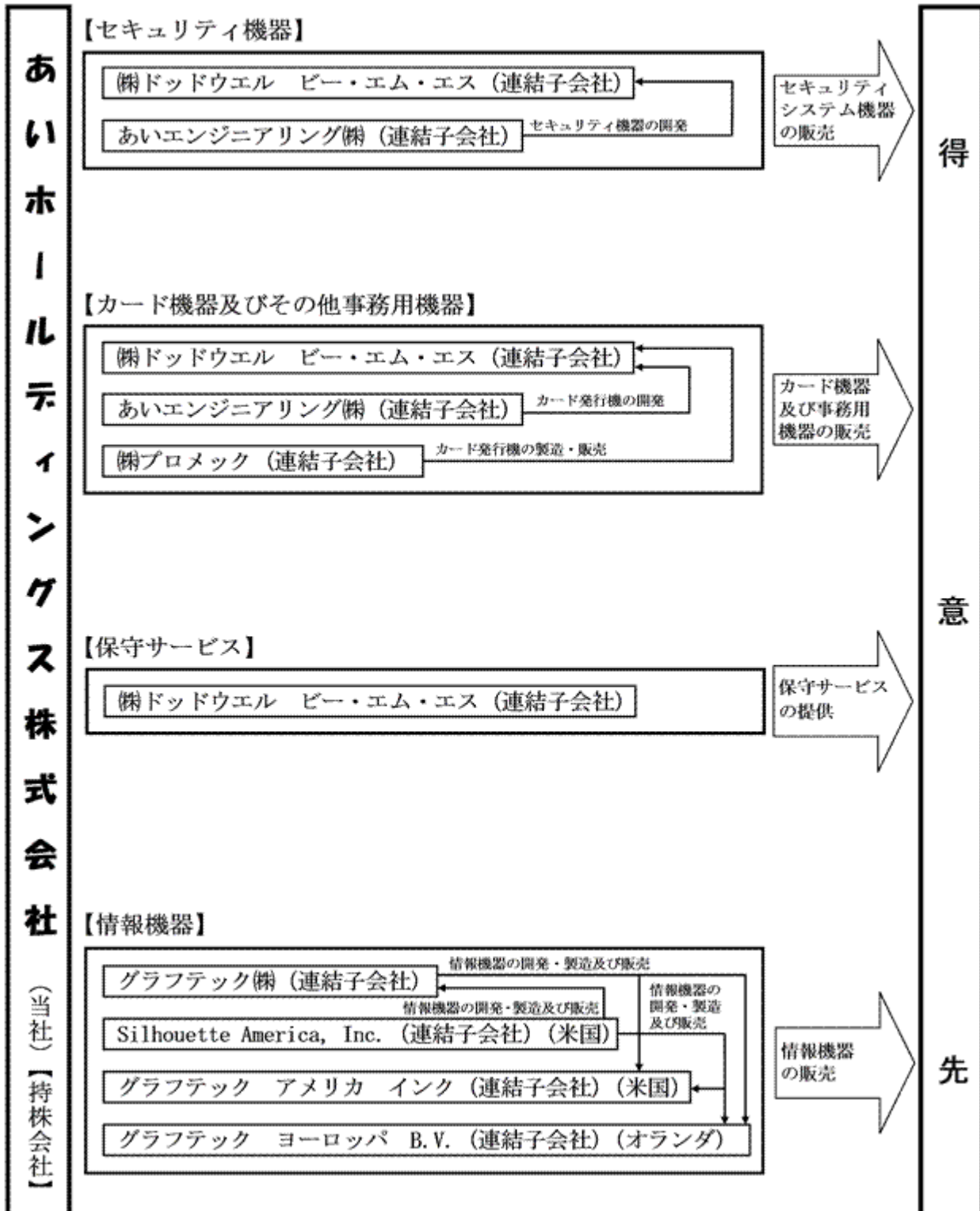
なお、純粋持株会社である当社は、グループ会社各社の経営指導等を行っております。

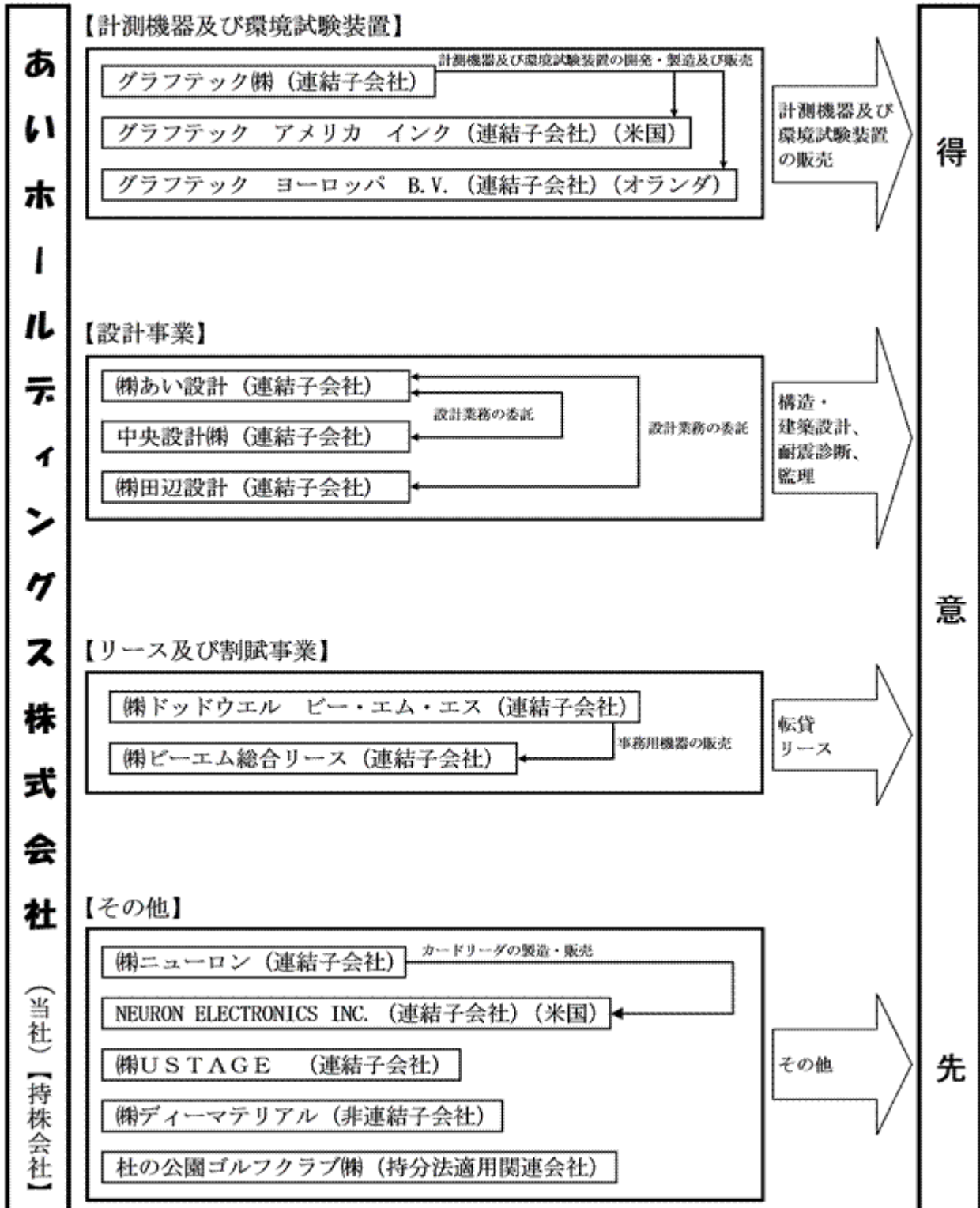
当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置づけは次のとおりであります。なお、次の事業区分は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

区 分	主要業務	主要な会社
セキュリティ機器	セキュリティシステム機器の開発・製造及び販売	株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス あいエンジニアリング株式会社
カード機器及びその他事務用機器	カード発行機器（病院向けカードシステム、金融向けカードシステム）及びその他事務用機器の開発・製造及び販売	株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス あいエンジニアリング株式会社 株式会社プロメック
保守サービス	セキュリティ機器、カード機器等の保守サービス	株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス
情報機器	プロッタやスキャナ等のコンピュータ周辺機器の開発・製造及び販売、保守サービス等	グラフィック株式会社 グラフィック アメリカ インク グラフィック ヨーロッパ B.V. Silhouette America, Inc.
計測機器及び環境試験装置	計測機器及び環境試験装置の開発・製造及び販売等	グラフィック株式会社 グラフィック アメリカ インク グラフィック ヨーロッパ B.V.
設計事業	構造設計、耐震診断を主体とした建築設計事業等	株式会社あい設計 中央設計株式会社 株式会社田辺設計
リース及び割賦事業	リース及び割賦の仲介業務	株式会社ビーエム総合リース
その他	カードリーダーの製造・販売及びソフトウェアの開発・販売等	株式会社ニューロン NEURON ELECTRONICS INC. 株式会社U S T A G E 社の公園ゴルフクラブ株式会社

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。





## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)  (株)ドッドウエル ビー・ エム・エス (注)3, 4	東京都中央区	2,992	セキュリティ機器、カード 機器及びその他事務用機 器、保守サービス	100.0	経営管理等に関する基 本契約を締結しており ます。 事業所スペースを当社 に賃貸しております。 役員の兼任等あり。
グラフィック(株) (注)3, 5	横浜市戸塚区	3,000	情報機器、計測機器及び環 境試験装置	100.0	経営管理等に関する基 本契約を締結しており ます。 事業所スペースを当社 に賃貸しております。 役員の兼任等あり。
(株)あい設計 (注)3, 7	広島市東区	45	設計事業	100.0	経営管理等に関する基 本契約を締結しており ます。 役員の兼任等あり。
あいエンジニアリング(株)	横浜市戸塚区	50	セキュリティ機器、カード 機器及びその他事務用機器	100.0	経営管理等に関する基 本契約を締結しており ます。 役員の兼任あり。
(株)ニューロン	横浜市戸塚区	50	その他	100.0 (10.0)	経営管理等に関する基 本契約を締結しており ます。 役員の兼任あり。
(株)U S T A G E	横浜市戸塚区	48	その他	66.7	
(株)ビーエム総合リース (注)3, 6	東京都中央区	21	リース及び割賦事業	100.0 (100.0)	役員の兼任あり。
(株)プロメック	大阪府寝屋川市	130	カード機器及びその他事務 用機器	99.9 (99.9)	役員の兼任あり。
中央設計(株)	山口県山口市	10	設計事業	100.0 (100.0)	
(株)田辺設計	横浜市中区	10	設計事業	100.0 (100.0)	
グラフィック アメリカ インク	アメリカ カリフォルニア 州	1,675 (千米ドル)	情報機器、計測機器及び環 境試験装置	100.0 (100.0)	
グラフィック ヨーロッ パ B.V.	オランダ アムステルダム	600 (千ユーロ)	情報機器、計測機器及び環 境試験装置	100.0 (100.0)	
Silhouette America, INC.	アメリカ ユタ州	500 (千米ドル)	情報機器	100.0 (100.0)	
NEURON ELECTRONICS INC.	アメリカ カリフォルニア 州	50 (千米ドル)	その他	100.0 (100.0)	
(持分法適用関連会社)  社の公園ゴルフクラブ(株)	東京都中央区	50	その他	39.4 (39.4)	役員の兼任あり。



- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。  
2. 議決権の所有割合欄の(内書)は間接所有割合であります。  
3. 特定子会社に該当しております。  
4. (株)ドッドウエル ビー・エム・エスについては、売上高の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(1) 売上高	10,278百万円
(2) 経常利益	1,729百万円
(3) 当期純利益	884百万円
(4) 純資産額	9,375百万円
(5) 総資産額	13,072百万円

5. グラフテック(株)については、売上高の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(1) 売上高	7,066百万円
(2) 経常利益	579百万円
(3) 当期純利益	344百万円
(4) 純資産額	8,063百万円
(5) 総資産額	9,626百万円

6. (株)ピーエム総合リースについては、売上高の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(1) 売上高	4,304百万円
(2) 経常利益	117百万円
(3) 当期純利益	77百万円
(4) 純資産額	262百万円
(5) 総資産額	3,652百万円

7. (株)あい設計については、売上高の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(1) 売上高	4,083百万円
(2) 経常利益	648百万円
(3) 当期純利益	369百万円
(4) 純資産額	1,045百万円
(5) 総資産額	2,345百万円

## 5【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

平成24年6月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
セキュリティ機器	223
カード機器及びその他事務用機器	97
保守サービス	139
情報機器	145
計測機器及び環境試験装置	66
設計事業	285
リース・割賦事業	2
報告セグメント計	957
その他	13
全社(共通)	33
合計	1,003

(注) 1. 従業員数は就業人員で記載しております。

2. 全社(共通)の従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

## (2) 提出会社の状況

平成24年6月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
33	44.8	15.4	5,742,987

セグメントの名称	従業員数(人)
全社(共通)	33
合計	33

(注) 1. 従業員数は就業人員で記載しております。

2. 平均勤続年数は、出向受入者の当社グループ内での勤続年数を加算しております。

3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

## (3) 労働組合の状況

連結子会社であるグラフテック株式会社の労働組合は、グラフテック従業員組合と称し、上部団体の全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会に加盟しております。なお、争議等特記すべき事項は一切なく、労使関係は相互信頼により安定的に維持されております。

提出会社及びその他の子会社においては、労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

##### 全般的概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による企業活動の停滞から持ち直しつつあり、景気は緩やかな回復傾向で推移したものの、欧州における債務問題や中国の金融引締め政策等を背景とした海外経済の下振れ懸念、長期化する株式市場の低迷、為替相場の円高基調の継続等、依然として先行きについては不透明な状況で推移いたしました。

このような景気の先行き不透明な経済環境のもと、当社グループの経営環境におきましても予断を許さない状況が続いておりますが、当連結会計年度においては、環境変化に機動的に即応し、効率性や採算性を考慮した社内体制の強化・整備を図り、利益重視の経営を推進いたしました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、281億5千6百万円（前年同期比8.3%増）となりました。利益面につきましては、営業利益は35億4千2百万円（前年同期比18.8%増）、経常利益は39億7千万円（前年同期比14.7%増）、当期純利益は24億6百万円（前年同期比6.7%増）となりました。

##### セグメントの状況

##### （セキュリティ機器）

セキュリティ機器につきましては、マンション・法人向けともに販売が堅調に推移したこと等により、売上高は58億8千7百万円（前年同期比9.6%増）、セグメント利益は9億6千2百万円（前年同期比30.2%増）となりました。

##### （カード機器及びその他事務用機器）

カード機器及びその他事務用機器につきましては、カード即時発行機器の金融機関向け新商品が販売に寄与したこと等により、売上高は27億1千7百万円（前年同期比13.0%増）、セグメント利益は5億8千9百万円（前年同期比50.7%増）となりました。

##### （保守サービス）

保守サービスにつきましては、企業の経費削減に伴いスポット修理・点検修理が減少したこと等により、売上高は16億9千8百万円（前年同期比6.6%減）、セグメント利益は1億7千6百万円（前年同期比17.6%減）となりました。

##### （情報機器）

情報機器につきましては、スキャナのOEM販売が減少したことや円高の影響を受けたものの、海外子会社であるSilhouette America, Inc. にて発売した、コンシューマ向け小型カッティングマシンの販売が好調に推移したこと等により、売上高は69億1千6百万円（前年同期比1.5%増）、セグメント利益は6億9千6百万円（前年同期比39.4%増）となりました。

##### （計測機器及び環境試験装置）

計測機器及び環境試験装置につきましては、環境試験装置の販売が企業の設備投資抑制の影響を受けたこと等により、売上高は19億8千4百万円（前年同期比8.2%減）、セグメント利益は2億円（前年同期比39.9%減）となりました。

##### （設計事業）

設計事業につきましては、耐震診断等の受注増加により、売上高は43億1千5百万円（前年同期比10.7%増）、セグメント利益は6億5千6百万円（前年同期比45.6%増）となりました。

##### （リース及び割賦事業）

リース及び割賦事業につきましては、売上高は41億円（前年同期比68.6%増）、セグメント利益は1億2千9百万円（前年同期比0.6%減）となりました。

##### （その他）

その他につきましては、売上高は5億3千6百万円（前年同期比51.2%減）、セグメント利益は1千3百万円（前年同期比71.7%減）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、87億8千4百万円となり、前連結会計年度末に比べて10億8千9百万円減少しました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は38億3百万円（前連結会計年度は40億1千9百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益38億5千7百万円、たな卸資産の減少額8億8千4百万円、前受金の増加額7億6千7百万円、法人税等の還付額3億8千9百万円、減価償却費3億3千5百万円等の収入に対し、仕入債務の減少額11億6千2百万円、法人税等の支払額6億9千6百万円、売上債権の増加額6億4千6百万円、負ののれん償却額3億1千7百万円等の支出があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は4億2千5百万円（前連結会計年度は1億3千8百万円の収入）となりました。これは主に、貸付金の回収による収入11億3千1百万円、投資有価証券の売却による収入2億4千8百万円等の収入に対し、貸付けによる支出12億1千1百万円、有価証券の取得による支出3億円、定期預金の預入による支出2億1千万円、有形固定資産の取得による支出2億1百万円等の支出があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は44億5千8百万円（前連結会計年度は9億9千6百万円の使用）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出35億円、配当金の支払額8億7千3百万円等の支出があったことによるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
カード機器及びその他事務用機器	412	115.2
情報機器	3,325	79.9
計測機器及び環境試験装置	1,889	88.6
設計事業	4,315	110.7
報告セグメント計	9,942	94.2
その他	429	93.1
合計	10,372	94.2

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。  
2. 金額には、標準品の外部生産高を含めております。  
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
セキュリティ機器	1,378	103.3
カード機器及びその他事務用機器	1,032	116.8
保守サービス	320	91.4
情報機器	2,079	179.3
計測機器及び環境試験装置	85	106.5
報告セグメント計	4,896	128.5
その他	304	38.2
合計	5,201	112.9

- (注) 1. 金額は仕入価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
設計事業	4,405	109.4	2,617	114.7

- (注) 1. 金額は契約価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
セキュリティ機器	5,887	109.6
カード機器及びその他事務用機器	2,717	113.0
保守サービス	1,698	93.4
情報機器	6,916	101.5
計測機器及び環境試験装置	1,984	91.8
設計事業	4,315	110.7
リース及び割賦事業	4,100	168.6
報告セグメント計	27,619	110.9
その他	536	48.7
合計	28,156	108.3

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日)		当連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
三菱UFJリース株式会社	3,044	11.7	3,182	11.3

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 3【対処すべき課題】

当社グループは、セキュリティ機器、カード機器及びその他事務用機器、情報機器、設計事業等、多岐にわたる事業活動を展開しており、それぞれの事業分野ごとに課題を抱えております。

グループの中核事業となっておりますセキュリティ機器につきましては、導入利用の多様化に対応するため、各方面と積極的に提携を進めることが課題となっております。

カード機器及びその他事務用機器につきましては、他社との業務提携により協業ビジネスを強化し、特に金融、流通市場へのICクレジットカードの即時発行の推進と、国内市場における実績を踏まえた海外市場への新たな事業拡大が課題となっております。

情報機器につきましては、業務用の商品が既に成熟していることから、現在、北米市場を中心に販売が好調に推移している小型カッティングマシンのように、商品の特性を生かした特定市場向け商品の開発を行っていくことが課題となっております。

設計事業につきましては、民間需要が冷え込む中、耐震診断や耐震構造設計に注力しながら官公庁を中心としたビジネスにシフトし、着実に成果を挙げてきておりますが、更に、新築物件等に向けても自社の強みを活かしていくことが課題となっております。

当社グループは、業績の拡大と収益力の向上のため、こうしたそれぞれの事業体質をより強固にする課題解決のための施策を迅速に立案、実施する一方、ホールディングカンパニーとしての特長を活かしながら、内部統制機能の見直しと充実を図ることにより、コンプライアンス体制の一層の強化も図ってまいります。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成24年6月30日）現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) M & Aについて

当社グループは、事業の拡大を図る手段として、M & Aを経営の重要課題として位置づけております。M & Aを行う際は、国内外を問わず、その対象企業の財務内容や契約関係について綿密なデューデリジェンスを行うことにより、買収によるリスクを極力回避することが必要と理解しております。しかし、買収先企業が価値算定時に期待した利益を計上できない場合や、M & A時に検出できなかった偶発債務や未認識債務等が顕在化した場合には、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

##### (2) 証券投資について

当社グループは、業務提携を目的に相手先企業の株式取得を行っておりますが、株式市場の変化や対象企業を取り巻く事業環境の変化により、株価の変動が起こり、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

##### (3) 経済状況及び為替変動について

当社グループは、国内及び海外への積極的な販売活動を行っております。また、一部製品においては海外メーカーより輸入供給を受けております。そのため、当社グループの製品を販売又は購入している国や地域の経済状況の変動及び為替変動により、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

また、このような背景の中、為替変動リスクヘッジのための為替予約を行っておりますが、急激な為替変動により、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

##### (4) リース・割賦債権について

当社グループのリース・割賦関連事業においては、徹底した与信管理を行っておりますが、長期にわたりお客様から債権を回収するビジネスモデルとなっており、景気変動等により貸倒れ等が発生し、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

##### (5) 外部生産委託及び購入製品について

当社グループは、主要事業において、製品の生産を外部製造業者に委託、並びに製品の購入を行っております。外部製造業者や購買業者とは密接な関係を保ち、安定的な製品の調達に努めておりますが、需要急増による製品納入の遅れ、製品の欠陥といった品質上の問題、地震等の災害が発生した場合等、製品の調達に重大な支障をきたした場合には、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

##### (6) 製品の需要変動について

当社グループは、市場動向を注視し、需給の変動に合わせた製品の生産及び購入を行い、急激な変動への対応と余剰在庫の発生を抑制するよう努めておりますが、経済状況や市場動向の急激な変化により当社グループ製品の需要が予想を大幅に下回る事態となった場合には、製品等が余剰となり、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

##### (7) 法的規制について

当社グループの設計事業においては、建築物・構造物における構造設計と意匠設計を中心としております。設計事業に従事する当社グループの従業員のうち、一級建築士は国土交通大臣、二級建築士は都道府県知事よりそれぞれ免許を受けております。また、第三者の求めに応じ報酬を得て、建築設計業務を行うにあたっては、建築士法に基づく建築事務所登録をする必要があり、設計事業を営む子会社は全支社を一級建築士事務所として都道府県へ登録を行っております。更に当該業界は、建築士法、建築基準法、建築基準法施行令、消防法、都市計画法、都市計画施行令、建築物の耐震改修の促進に関する法律等により、直接的、間接的に法的規制を受けております。以上の法的規制がより厳しいものとなった場合には、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

##### (8) 訴訟・係争等について

当社グループは、国内及び海外で様々な事業活動を行っており、事業活動を推進して行くうえで、国内外で訴えや損害賠償請求を受けたり、その他の係争の対象となることがあります。これらの訴訟・係争等が発生した場合、その動向及び結果によっては、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

#### 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当連結会計年度における各セグメント別の研究成果及び研究開発費は次のとおりであります。  
なお、当連結会計年度の研究開発費については、総額で5億9千4百万円となっております。

### (1) セキュリティ機器

セキュリティ機器については、監視カメラの画像処理に関する研究開発を行っております。当セグメントにおける研究開発費は4千3百万円であります。

### (2) カード機器及びその他事務用機器

カード機器及びその他事務用機器については、医療機関及び金融機関向けのカード発行機に関する研究開発を行っております。当セグメントにおける研究開発費は1億5千4百万円であります。

### (3) 情報機器

情報機器については、主力製品である業務用カッティングプロッタ及びコンシューマ向け小型カッティングマシン、スキャナ等の研究開発を行っております。当連結会計年度においては、次期新製品のカッティングプロッタやスキャナ等の研究開発を行いました。なお、当セグメントにおける研究開発費は2億7千1百万円であります。

### (4) 計測機器及び環境試験装置

計測機器及び環境試験装置については、計測機器（各種レコーダ製品、レーザドップラ振動計製品等）及び環境試験装置の研究開発を行っております。当連結会計年度においては、次期新製品についての研究開発を行いました。なお、当セグメントにおける研究開発費は1億2千4百万円であります。

### (5) その他

その他については、カードリーダーに関する研究開発を行っております。当セグメントにおける研究開発費は0百万円であります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表を作成するにあたり重要となる会計方針については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載されているとおりであります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### 売上高

当連結会計年度の売上高は、セキュリティ機器においてマンション・法人向けともに販売が堅調に推移したことや、設計事業において耐震診断等の受注増加、カード機器及びその他事務用機器においてカード即時発行機器の金融機関向け新商品が販売に寄与したこと、また、リース及び割賦事業等により、281億5千6百万円（前年同期比108.3%）となりました。

#### 経常利益

当連結会計年度の営業利益は、効率性や採算性を考慮した社内体制の見直しによるコストダウンや経費削減に取り組んだこと等により、35億4千2百万円（前年同期比118.8%）となりました。また、経常利益は、営業外収益として負ののれん償却額3億1千7百万円を計上したこと等により、39億7千万円（前年同期比114.7%）となりました。

#### 当期純利益

当連結会計年度の当期純利益は、特別損失として投資有価証券評価損9千3百万円を計上したこと等により、24億6百万円（前年同期比106.7%）となりました。



## (3) 当連結会計年度の財政状態の分析

## 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べて20億4千1百万円減少し、297億7千2百万円となりました。主な要因は、流動資産における現金及び預金8億8千万円減少、受取手形及び売掛金6億4千1百万円増加、有価証券9億8千8百万円増加、商品及び製品8億8千万円減少、無形固定資産におけるのれん1億5千9百万円減少、投資その他の資産における投資有価証券10億4千7百万円減少、繰延税金資産1億7千4百万円減少等であります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて4千6百万円減少し、90億8百万円となりました。主な要因は、流動負債における支払手形及び買掛金11億7千1百万円減少、未払法人税等6億2千5百万円増加、前受金7億6千7百万円増加、固定負債における負ののれん3億1千7百万円減少等であります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ19億9千5百万円減少し、207億6千3百万円となりました。主な要因は、当期純利益24億6百万円を計上したこと、自己株式の取得35億円、配当金8億7千5百万円の支払等であります。この結果、自己資本比率は69.7%となりました。

## キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、87億8千4百万円となり、前連結会計年度末に比べて10億8千9百万円減少しました。

なお、キャッシュ・フロー関連指標の推移は以下のとおりであります。

	平成20年 6月期	平成21年 6月期	平成22年 6月期	平成23年 6月期	平成24年 6月期
自己資本比率（％）	70.1	72.4	71.0	71.5	69.7
時価ベースの自己資本比率（％）	104.7	66.5	54.4	56.4	68.7
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（％）	-	0.0	-	-	-
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	174.6	331.9	448.3	634.5	720.7

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

（注）1．いずれも連結ベースの財務指標により計算しております。

2．株式時価総額は、期末株価終値×期末株式数（自己株式控除後）により算出しております。

3．キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

4．有利子負債は連結貸借対照表上に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度中における設備投資の総額は3億8千万円、その主なものは、情報機器、計測機器及び環境試験装置の新製品に係る生産設備及び金型、また、全社（共通）の当社グループ内利用ソフトウェア等に係るものであります。

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
本社事務所 (東京都中央区)	全社	統括業務施設	-	-	-	-	0	0	33

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

##### (2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 (人)	
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
㈱ドッドウエル ビー・エム・エス	本社事務所 (東京都中央区)	セキュリティ 機器 カード機器及 びその他事務 用機器 保守サービス	統括業務施 設及び営業 施設	145	0	424 (379.53)	20	37	628	112
	大阪支店他 31拠点 (大阪市中央区他)	セキュリティ 機器 カード機器及 びその他事務 用機器 保守サービス	営業施設	0	0	-	76	10	87	312
グラフテック㈱	本社事務所 (横浜市戸塚区)	情報機器 計測機器及び 環境試験装置	統括業務施 設及び生産 施設他	1,050	1	2,588 (4,668.75)	39	21	3,702	114
	藤沢事業所 (神奈川県藤沢市)	計測機器及び 環境試験装置	生産設備他	31	0	151 (1,476.64)	2	0	185	18
	戸塚事業所 (横浜市戸塚区)	情報機器 計測機器及び 環境試験装置	倉庫設備	169	0	557 (6,254.06)	2	0	728	10
㈱あい設計	本社事務所 (広島市東区)	設計事業	統括業務施 設及び営業 施設	8	-	-	19	0	28	61
	東京支社他 19拠点 (東京都江東区他)	設計事業	営業施設	74	-	12 (694.2)	19	0	106	208
㈱プロメック	本社事務所 (大阪府寝屋川市)	カード機器及 びその他事務 用機器	生産設備	23	0	553 (1,844.62)	7	0	585	5

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び金型の合計であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

## (3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
グラフィック アメリカ インク	本社事務所 (米国 カリフォル ニア州)	情報機器 計測機器及び 環境試験装置	営業施設	8	7	-	-	4	21	21
グラフィック ヨーロッパ B.V.	本社事務所 (オランダ アムステルダム)	情報機器 計測機器及び 環境試験装置	営業施設	-	-	-	-	2	2	4

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び金型の合計であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

## 3【設備の新設、除却等の計画】

## (1) 重要な設備の新設等

特記すべき事項はありません。

## (2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	220,000,000
計	220,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年9月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	56,590,410	56,590,410	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	56,590,410	56,590,410		

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

記載事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成19年9月28日(注)	-	56,590,410	-	5,000	45	1,045

(注) 資本準備金の増加は配当額の10分の1を積み立てたものであります。

#### (6)【所有者別状況】

平成24年6月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式 の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	32	35	116	117	9	11,504	11,813	-
所有株式数 (単元)	-	111,139	5,034	15,016	62,773	144	371,327	565,433	47,110
所有株式数 の割合(%)	-	19.66	0.89	2.66	11.10	0.03	65.67	100.00	-

(注) 1. 自己株式9,224,970株は「個人その他」に92,249単元及び「単元未満株式の状況」に70株を含めて記載しております。

2. 上記「その他の法人」の中には、証券保管振替機構名義の株式が、12単元含まれております。

## (7)【大株主の状況】

平成24年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
佐々木 秀吉	東京都文京区	110,055	19.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	29,920	5.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	15,499	2.73
あいホールディングス社員持株会	東京都中央区日本橋久松町12-8	10,657	1.88
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	9,029	1.59
第一生命保険株式会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区有楽町1丁目13-1 (東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	7,600	1.34
野村信託銀行株式会社(退職給付信託・三菱UFJ信託銀行口)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	6,400	1.13
株式会社 データロジック	山口県萩市大字江崎25-1	5,600	0.98
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟	5,518	0.97
ビーエヌワイエムエル ノン トリーテ ィー アカウント (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	VERTIGO BUILDING - POLARIS 2-4 RUE EUGENE RUPPERT L-2453 LUXEMBOURG GRAND DUCHY OF LUXEMBOURG (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	3,853	0.68
計	-	204,132	36.07

(注) 1. 上記のほか、自己株式が92,249百株あります。

2. 前事業年度末において主要株主であったレスポワール投資事業有限責任組合 無限責任組合員 合同会社レスポワールは、当事業年度末現在では主要株主ではなくなりました。

3. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	29,920百株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,499百株
野村信託銀行株式会社(退職給付信託・三菱UFJ信託銀行口)	6,400百株
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	5,518百株

## ( 8 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 9,224,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 47,318,400	473,184	
単元未満株式	普通株式 47,110		
発行済株式総数	56,590,410		
総株主の議決権		473,184	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,200株が含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数12個が含まれております。

## 【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
あいホールディングス株式会社	東京都中央区日本橋久松町12番8号	9,224,900	-	9,224,900	16.30
計		9,224,900	-	9,224,900	16.30

## ( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
取締役会(平成24年5月15日)での決議状況 (取得期間 平成24年5月16日)	7,352,900	3,499
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	7,352,900	3,499
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	-

(注) 東京証券取引所における自己株式立会外取引(T o S T N e T - 3)による取得であります。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	758	0
当期間における取得自己株式	89	0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年9月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った 取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	9,224,970		9,225,059	

(注) 1. 当期間における処理自己株式数には、平成24年9月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式数は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成24年9月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式数は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、配当につきましては、業績及び配当性向等を総合的に勘案して、株主の皆さまのご期待にお応えしてまいりたいと考えております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

内部留保資金につきましては、将来にわたる株主の利益を確保するため、積極的な事業展開の推進、企業体質の一層の強化を図るための投資に充當いたしたく存じます。

当期の配当につきましては、1株当たりの期末配当金を8円とし、1株当たりの中間配当金8円とあわせ年間配当は1株当たり16円といたしました。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年12月31日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成24年2月14日 取締役会決議	437	8
平成24年9月27日 定時株主総会決議	378	8

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
決算年月	平成20年6月	平成21年6月	平成22年6月	平成23年6月	平成24年6月
最高(円)	795	562	373	358	531
最低(円)	428	230	262	262	300

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年1月	2月	3月	4月	5月	6月
最高(円)	332	372	445	504	531	462
最低(円)	319	328	357	410	434	391

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。



## 5【役員 の 状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)
取締役会長 (代表取締役)	最高経営責任者 (CEO)	佐々木 秀吉	昭和31年9月25日生	昭和57年5月 平成5年5月	東洋ホーム株式会社代表取締役 株式会社ドッドウエル ビー・ エム・エス取締役	(注)3	110,055
			平成6年6月 平成7年5月	同社代表取締役社長(現任) 株式会社ビーエム総合リース代 表取締役社長(現任)			
			平成12年12月	株式会社プロメック代表取締役 会長(現任)			
			平成17年11月	株式会社ディーマテリアル代表 取締役社長(現任)			
			平成19年4月	当社代表取締役会長最高経営責 任者(CEO)(現任)			
			平成21年2月	株式会社塩見設計(現 株式会 社あい設計)代表取締役会長 (現任)			
			平成21年6月	株式会社ニューロン代表取締役 社長(現任)			
			平成21年7月	グラフィック株式会社代表取締 役社長(現任)			
			平成21年7月	あいエンジニアリング株式会社 代表取締役会長(現任)			
取締役社長 (代表取締役)	-	大島 昭彦	昭和22年5月27日生	昭和49年4月 平成6年6月	全国中小企業団体中央会(通産 省所管法人) 株式会社ドッドウエル ビー・ エム・エス取締役(現任)		
			平成7年8月 平成9年10月	同社取締役社長室長 同社取締役管理本部長			
			平成10年9月	株式会社ビーエム総合リース取 締役(現任)			
			平成11年4月	広島県議会議員			
			平成21年1月	株式会社あい設計取締役(現 任)			
			平成24年9月	当社代表取締役社長(現任)			
取締役	管理本部長	唐崎 英明	昭和22年4月30日生	昭和46年4月 平成3年3月	株式会社ダイエー入社 株式会社ウエンコ・ジャパン (出向)取締役総務人事部長	(注)3	153
			平成7年9月	株式会社ダイエー フードサー ビス事業担当総務人事部長			
			平成13年6月	株式会社ドッドウエル ビー・ エム・エス入社			
			平成13年10月	同社総務部長			
			平成15年5月	同社総務人事部長(現任)			
			平成19年4月	当社取締役管理本部長(現任)			
取締役	-	三山 裕三	昭和30年2月28日生	昭和55年10月 昭和58年4月 昭和61年9月	司法試験合格 弁護士登録(第一東京弁護士会) 三山裕三法律事務所開設	(注)3	880
			平成13年7月	三山総合法律事務所代表(現任)			
			平成19年4月	当社取締役(現任)			

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)	
常勤監査役	-	田口 詞男	昭和23年5月5日生	昭和42年4月 昭和52年11月 平成8年4月 平成13年7月 平成14年6月 平成14年12月 平成15年3月 平成15年5月 平成16年8月 平成19年4月	日本事務器株式会社入社 株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス入社 同社大宮支店長 同社事業推進部長 同社メーリングシステム営業部長 同社映像システム事業部販売2部長 同社映像システム販売統括部長 同社横浜支店長 同社大宮支店長 当社監査役(現任)	(注)4	473	
監査役	-	安達 一彦	昭和21年6月29日生	昭和47年9月 昭和48年4月 昭和50年4月 昭和55年4月 平成8年6月 平成19年4月	司法試験合格 税務大学校講師 弁護士登録(第二東京弁護士会) 安達一彦法律事務所代表(現任) 株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス監査役 当社監査役(現任)	(注)4	-	
監査役	-	石本 哲敏	昭和37年6月1日生	昭和62年10月 平成2年4月 平成12年4月 平成18年9月 平成19年4月	司法試験合格 弁護士登録(東京弁護士会) 石本哲敏法律事務所代表(現任) 株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス監査役 当社監査役(現任)	(注)4	-	
計								112,347

- (注) 1. 取締役三山裕三は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
 2. 監査役安達一彦及び石本哲敏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
 3. 平成24年9月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。  
 4. 平成22年9月29日開催の定時株主総会終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。  
 5. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役を2名選任しております。  
 補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (百株)
関 道弥	昭和28年1月23日生	昭和51年12月 平成8年8月 平成12年8月 平成12年10月 平成17年3月 平成19年4月	株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス入社 同社経理部財務課長 同社経理部副部長 同社財務部副部長 同社財務経理部長(現任) 当社財務経理部長(現任)	-
大瀧 敦子	昭和38年8月18日生	平成3年10月 平成6年4月 平成16年1月	司法試験合格 弁護士登録(東京弁護士会) 石本哲敏法律事務所パートナー(現任)	-

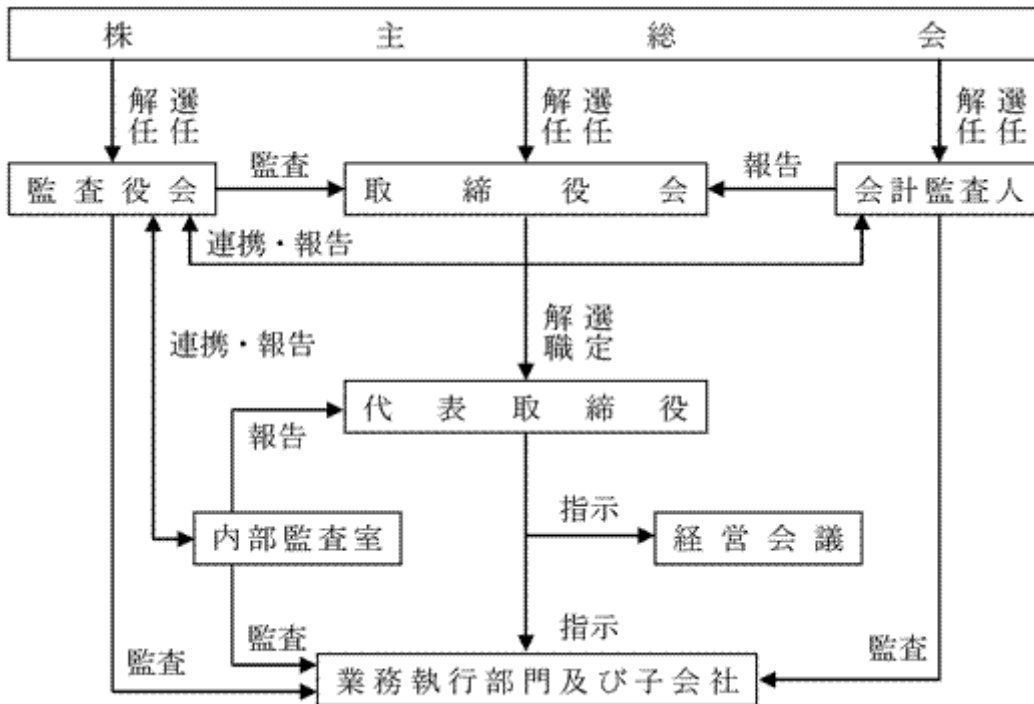
## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、「すべては『信頼』と『誠実』から始まり人と社会に認められる価値を創造する」という企業理念のもと、企業としての社会的責任の遂行と企業価値の向上を目指し、資本効率重視の経営を進めております。また、業務を執行するに際し重要となる企業の透明性・効率性の確保のための施策として、適切な権限委譲による意思決定の迅速化、適時・適切な情報開示、コンプライアンス並びに経営監視機能の強化により、コーポレート・ガバナンス体制の整備・拡充に努めております。

企業統治の体制の概要と当該体制を採用する理由



当社は、業務に精通した取締役が取締役会における審議・決定に基づき業務を執行し、監査役会が取締役による業務執行の監視を行う体制が、コーポレート・ガバナンスの目的を果たし、迅速かつ効率的な経営を行ううえで最も適切であると考えて、監査役会設置会社の形態を採用しています。また、監査役の監視機能の信頼性と健全性を高めるために、監査役3名のうち2名は社外監査役であり、社外監査役は独立性と専門性を重視して選任しております。

当社の取締役会は、4名の取締役（うち1名は社外取締役）で構成されております。原則四半期ごとに取締役会を開催して、経営の基本方針や重要事項を決定するとともに、業務の遂行状況についても随時報告を行っております。また、グループ経営の重要事項について検討・決定や、コーポレート・ガバナンスに関する事項を検討・周知するため、経営会議を原則四半期ごとに開催しております。さらに、経営会議の中には、当社及びグループ各社のコンプライアンス体制の整備とリスク管理に対する体制を整備していくため、「コンプライアンス・リスク委員会」を設置しております。

このうち、当社及びグループ各社のコンプライアンス体制に関しては「コンプライアンス規程」を定め、具体的な行動指針は「コンプライアンス・マニュアル」を策定して、反社会的勢力への対応等の遵守事項の周知徹底を図っております。また、法令等に対する違反を発見した場合や、自らが不注意により違反した場合に備え、内部通報を行うことのできるホットラインを当社内に設置し、適切かつ迅速な対応のとれる体制を構築しております。一方、リスク管理体制については、発生しうるリスクの識別、評価、発生防止に係る管理体制の整備、発生したリスクへの対応等のために「リスク管理規程」を定め、各社のリスク管理責任者が緊密に連携しながら横断的なリスク管理体制を構築しております。

## 内部統制システムの整備状況

当社の内部統制システムに関しましては、「内部統制システム構築の基本方針」を平成19年4月2日の設立時の取締役会で決議いたしました。その後、反社会的勢力に対する基本方針の追加等一部を改定いたしました。内部統制システム構築の基本方針の概要は以下のとおりであります。

### イ．取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、企業倫理・法令遵守の基本姿勢を明確にするため「コンプライアンス規程」を定め、取締役及び使用人に法令・定款の遵守を徹底する。また、徹底を図るため、内部監査室においてコンプライアンスの取組みを横断的に統括する。

内部監査室は、当社及び子会社から成る企業集団のコンプライアンスの状況等について監査を実施し、その活動を定期的に取り締役会及び監査役会に報告する。

### ロ．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、顧客情報及び営業秘密等を管理するため「情報管理規程」を定めるとともに、社内外を問わず業務上の全ての情報を保存及び管理するため「文書管理規程」を定める。

取締役会その他の重要会議の意思決定に関する情報や、その他の重要決裁に関する情報についても、「文書管理規程」に基づき文書又は電磁的記録媒体に記録し、適切に保存及び管理する。取締役及び監査役は、常時、これらの情報を閲覧できる。

### ハ．損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、「リスク管理規程」を定め、各部門のリスクについての管理責任者を決定し、同規程に従ったリスク管理体制を構築する。

内部監査室は、当社及び子会社から成る企業集団におけるリスク管理の状況を監査し、その結果を定期的に取り締役会に報告する。

### ニ．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の効率的な業務執行を確保するため、経営方針及び経営戦略に関する重要事項については、子会社の取締役の参加を適宜求めつつ、代表取締役会長、代表取締役社長、その他の取締役によって構成される経営会議において事前に十分な審議を行うこととし、そのうえで、原則四半期ごとに開催される取締役会に諮り決定する。

### ホ．当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するため、企業集団各社の重要事項の決定等に関し情報の共有化を図るとともに、企業集団全体の内部統制システムを構築し、その有効かつ適切な運用を進める。

内部監査室は、企業集団各社の業務遂行状況等の監査を実施し、その結果を企業集団各社の責任者に報告する。企業集団各社の責任者は、必要に応じて内部統制の改善を実施する。

### ヘ．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制

監査役が必要とした場合、監査役の職務を補助すべき使用人を置く。

### ト．監査役を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する体制

監査役を補助する使用人の任命、異動等の人事に係る事項の決定には、監査役会の意見を尊重する。また、監査役より監査業務に必要な命令を受けた使用人は、その命令に関して取締役等の指揮命令を受けない。

### チ．取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は、監査役に対して、重大な法令・定款違反又は会社に著しい損害を及ぼす虞のあることを発見した場合には、速やかに報告、情報提供を行う。

監査役は、重要な意思決定の過程や業務執行の状況を把握するため、必要がある場合には取締役及び使用人に説明を求めることができる。

### リ．その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、代表取締役会長、代表取締役社長及びその他の取締役等と定期的に情報・意見交換を実施する。また、監査役は、当社の会計監査人から会計監査内容について説明を受けるとともに、情報の交換を行う等、連携を図る。

### ヌ．反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、「コンプライアンス規程」を定め、当局と連携しつつ企業集団全体として、社会の秩序や安定に脅威を与える反社会的な勢力に対して、毅然とした態度で臨み、一切関係を持たない。

また、コンプライアンス・マニュアルにおいて、反社会的勢力に対する行動指針を示し、取締役及び使用人への周知徹底を図る。

### 内部監査及び監査役監査の状況

当社は内部監査室（４名）を設置し、当社グループ各社の内部統制の整備・運用状況等について、内部監査の年間計画を立案し、内部監査を実施しております。内部監査の実施結果については、代表取締役へ報告しております。また、監査役との情報交換を積極的に行い、緊密な連携を図りながら、内部監査機能の強化を図っております。

当社は監査役制度を採用しております。社外監査役の選任状況につきましては、監査役３名のうち２名を社外監査役として選任しております。なお、社外監査役と当社との間に利害関係はありません。監査役は、取締役会やその他の重要会議等へ出席し、適宜、適法上の観点から意見の表明を行い、取締役の職務執行を十分に監視できる体制としております。また、監査役は、会計監査人から監査内容について説明を受けるとともに、情報の交換を行う等、連携を図っております。

### 社外取締役及び社外監査役

当社では、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準は特段設けておりませんが、豊富な知識、経験に基づき客観的な視点から当社の経営等に対し、適切な意見を述べていただける方を選任しております。

当社では、提出日現在、社外取締役１名と社外監査役２名を選任しており、いずれも弁護士の資格を保持しており、法務に関する相当程度の知見を有しております。また、当社との間に特記すべき人的関係、取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役の選任状況について、一般株主との利益相反が生じる虞がなく、高い独立性を有すると判断しており、社外取締役は、取締役会の場において、取締役、監査役及び内部監査部門等と必要に応じて情報の共有や意見交換を行い、経営の公正性、中立性及び透明性を高めるよう努めております。

また、社外監査役の選任状況につきましても、一般株主との利益相反が生じる虞がなく、高い独立性を有すると判断しており、社外からの客観的な立場からの監査ができるものと判断しております。社外監査役は、取締役会、監査役会等の場を通じ、取締役、監査役、会計監査人及び内部監査部門と必要に応じて情報の共有や意見交換を行う等して連携を深め、監査体制の独立性及び中立性、意思決定の適法性・透明性を高めるよう努めております。

以上から、当社の企業統治において社外取締役及び社外監査役が果たすべき機能及び役割は、現状の体制で確保されていると考えております。

### 会計監査の状況

当社は、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査についてあらた監査法人と監査契約を締結し、会計監査を受けております。なお、同監査法人及び当社の会計監査業務を執行した業務執行社員との間には、特別な利害関係はありません。

当期における当社の会計監査業務を執行した公認会計士は次のとおりであります。

指定社員 業務執行社員 戸田 栄

指定社員 業務執行社員 友田和彦

なお、継続監査年数が７年以内のため監査年数の記載は省略しております。

当連結会計年度の会計監査業務に係る補助者は、以下のとおりであります。

公認会計士６名、日本公認会計士協会準会員５名、その他４名

### 役員の報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	71	67	-	3	-	3
監査役 (社外監査役を除く。)	7	6	-	1	-	1
社外役員	11	11	-	-	-	3

ロ．役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が１億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ．役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

当社及び連結子会社のうち、投資会社の貸借対照表計上額（投資株式計上額）が最も大きい会社（最大保有会社）である当社については以下のとおりです。

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数 2 銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 738百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額（百万円）	保有目的
日本電計(株)	1,090,700	701	経営戦略上の保有
(株)内田洋行	349,000	84	経営戦略上の保有
T O A(株)	72,000	37	経営戦略上の保有

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額（百万円）	保有目的
日本電計(株)	1,090,700	692	経営戦略上の保有
T O A(株)	72,000	45	経営戦略上の保有

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

該当事項はありません。

責任限定契約の内容の概要

イ．取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役の責任免除について、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨、定款に定めております。これは、取締役及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

ロ．社外取締役及び社外監査役の責任限定契約

社外取締役又は社外監査役として職務を遂行するにあたり善意かつ重大な過失がないときは、会社法第423条第1項に定める損害賠償責任について、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額をもって当該損害賠償責任の限度額とする旨の責任限定契約を、全ての社外取締役及び社外監査役と締結しております。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨、定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨、定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨、定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ．自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、市場取引等により自己の株式を取得することができる旨、定款に定めております。これは、財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とすることを目的とするものであります。

ロ．中間配当

当社は、中間配当について、取締役会の決議によって毎年12月31日を基準日として中間配当をすることができる旨、定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	33	-	33	-
連結子会社	38	1	38	-
計	72	1	72	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

連結子会社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、合意された手続きによる調査業務等に対するものであります。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年7月1日から平成24年6月30日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成23年7月1日から平成24年6月30日まで）の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容の適切な把握及び変更等への適格な対応を実施できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、情報収集に努めるとともに、同機構が行うセミナー等に適宜参加しております。



## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,893	9,012
受取手形及び売掛金	4,559	5,201
リース投資資産	536	584
有価証券	-	988
商品及び製品	3,495	2,614
仕掛品	106	75
未成工事支出金	221	251
原材料及び貯蔵品	503	471
繰延税金資産	426	490
前払費用	123	129
短期貸付金	435	623
その他	756	190
貸倒引当金	41	40
流動資産合計	21,015	20,594
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,840	5,873
減価償却累計額	4,253	4,359
建物及び構築物(純額)	1,586	1,514
機械装置及び運搬具	91	106
減価償却累計額	85	90
機械装置及び運搬具(純額)	6	15
工具、器具及び備品	1,851	1,574
減価償却累計額	1,753	1,488
工具、器具及び備品(純額)	97	86
土地	4,274	4,287
リース資産	285	394
減価償却累計額	126	194
リース資産(純額)	159	200
建設仮勘定	46	127
有形固定資産合計	6,171	6,232
無形固定資産		
のれん	894	735
リース資産	33	20
ソフトウェア	102	89
その他	51	20
無形固定資産合計	1,082	866

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,382	1,334
長期貸付金	218	103
繰延税金資産	720	545
その他	405	247
貸倒引当金	183	152
投資その他の資産合計	3,544	2,079
固定資産合計	10,798	9,177
資産合計	31,814	29,772
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	4,021	2,849
リース債務	224	260
未払金	984	804
未払費用	115	110
未払法人税等	219	844
前受金	457	1,224
賞与引当金	99	104
製品保証引当金	22	15
受注損失引当金	34	26
その他	356	363
流動負債合計	6,534	6,604
<b>固定負債</b>		
リース債務	512	554
繰延税金負債	21	30
退職給付引当金	776	845
資産除去債務	12	7
負ののれん	328	10
長期前受収益	612	684
その他	254	269
固定負債合計	2,519	2,403
負債合計	9,054	9,008

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	9,049	9,049
利益剰余金	10,612	12,143
自己株式	1,188	4,688
株主資本合計	23,473	21,504
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	218	236
繰延ヘッジ損益	5	0
為替換算調整勘定	500	503
その他の包括利益累計額合計	713	740
純資産合計	22,759	20,763
負債純資産合計	31,814	29,772

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
売上高	26,006	28,156
売上原価	15,964	17,402
売上総利益	10,041	10,753
販売費及び一般管理費		
役員報酬	194	206
給与及び手当	2,341	2,443
賞与	422	480
賞与引当金繰入額	74	80
退職給付費用	213	197
その他	3,814	3,802
販売費及び一般管理費合計	7,061	7,211
営業利益	2,980	3,542
営業外収益		
受取利息	5	11
受取配当金	32	37
負ののれん償却額	419	317
持分法による投資利益	-	1
受取賃貸料	35	57
その他	61	44
営業外収益合計	553	469
営業外費用		
支払利息	6	5
持分法による投資損失	25	-
為替差損	29	-
デリバティブ評価損	-	18
賃貸費用	4	4
その他	5	13
営業外費用合計	71	41
経常利益	3,462	3,970
特別利益		
投資有価証券売却益	44	29
貸倒引当金戻入額	9	-
その他	5	-
特別利益合計	59	29

	前連結会計年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	2 6	2 15
投資有価証券売却損	0	28
投資有価証券評価損	127	93
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	29	-
退職給付制度終了損	154	-
その他	42	3
特別損失合計	359	141
税金等調整前当期純利益	3,162	3,857
法人税、住民税及び事業税	272	1,327
法人税等調整額	634	123
法人税等合計	907	1,451
少数株主損益調整前当期純利益	2,254	2,406
少数株主利益	-	-
当期純利益	2,254	2,406

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	2,254	2,406
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	298	17
繰延ヘッジ損益	5	5
為替換算調整勘定	60	3
その他の包括利益合計	243	26
包括利益	2,497	2,380
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,497	2,380
少数株主に係る包括利益	-	-

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	5,000	5,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,000	5,000
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	9,049	9,049
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	9,049	9,049
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	9,234	10,612
当期変動額		
剰余金の配当	876	875
当期純利益	2,254	2,406
当期変動額合計	1,378	1,531
当期末残高	10,612	12,143
<b>自己株式</b>		
当期首残高	1,139	1,188
当期変動額		
自己株式の取得	48	3,500
当期変動額合計	48	3,500
当期末残高	1,188	4,688
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	22,143	23,473
当期変動額		
剰余金の配当	876	875
当期純利益	2,254	2,406
自己株式の取得	48	3,500
当期変動額合計	1,329	1,969
当期末残高	23,473	21,504

	前連結会計年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	517	218
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	298	17
当期変動額合計	298	17
当期末残高	218	236
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	-	5
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5	5
当期変動額合計	5	5
当期末残高	5	0
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	439	500
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	60	3
当期変動額合計	60	3
当期末残高	500	503
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	957	713
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	243	26
当期変動額合計	243	26
当期末残高	713	740
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	21,186	22,759
当期変動額		
剰余金の配当	876	875
当期純利益	2,254	2,406
自己株式の取得	48	3,500
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	243	26
当期変動額合計	1,572	1,995
当期末残高	22,759	20,763



## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	3,162	3,857
減価償却費	326	335
負ののれん償却額	419	317
投資有価証券評価損益（は益）	127	93
投資有価証券売却損益（は益）	44	0
製品保証引当金の増減額（は減少）	9	7
貸倒引当金の増減額（は減少）	13	33
賞与引当金の増減額（は減少）	6	4
受注損失引当金の増減額（は減少）	5	7
受取利息及び受取配当金	37	49
支払利息	6	5
売上債権の増減額（は増加）	608	646
たな卸資産の増減額（は増加）	569	884
仕入債務の増減額（は減少）	279	1,162
前受金の増減額（は減少）	50	767
破産更生債権等の増減額（は増加）	19	38
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	29	-
関係会社清算損益（は益）	24	-
退職給付制度終了損	154	-
その他	581	303
小計	4,137	4,066
利息及び配当金の受取額	37	49
利息の支払額	6	5
法人税等の支払額	579	696
法人税等の還付額	430	389
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,019</b>	<b>3,803</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	-	210
定期預金の払戻による収入	12	100
有価証券の取得による支出	-	300
有形固定資産の取得による支出	125	201
無形固定資産の取得による支出	39	10
投資有価証券の取得による支出	43	0
投資有価証券の売却による収入	269	248
関係会社株式の取得による支出	20	-
貸付けによる支出	1,412	1,211
貸付金の回収による収入	1,440	1,131
その他	58	28
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>138</b>	<b>425</b>

	前連結会計年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	48	3,500
配当金の支払額	876	873
その他	71	84
財務活動によるキャッシュ・フロー	996	4,458
現金及び現金同等物に係る換算差額	35	7
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	3,126	1,089
現金及び現金同等物の期首残高	6,747	9,874
現金及び現金同等物の期末残高	9,874	8,784

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 14社

連結子会社の名称

株式会社ドッドウエル ビー・エム・エス  
グラフィック株式会社  
株式会社あい設計  
あいエンジニアリング株式会社  
株式会社ニューロン  
株式会社U S T A G E  
株式会社ビーエム総合リース  
株式会社プロメック  
中央設計株式会社  
株式会社田辺設計  
グラフィック アメリカ インク  
グラフィック ヨーロッパ B.V.  
Silhouette America, Inc.  
NEURON ELECTRONICS INC.

(2) 非連結子会社の数 1社

非連結子会社の名称

株式会社ディーマテリアル  
(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数 1社

持分法を適用した関連会社の名称  
社の公園ゴルフクラブ株式会社

(2) 持分法を適用していない非連結子会社の数 1社

持分法を適用していない非連結子会社の名称  
株式会社ディーマテリアル

当連結会計年度において、ソフティックジャパン株式会社の保有全株式を売却し、持分法を適用していない関連会社から除外しております。

(持分法を適用しない理由)

非連結子会社は小規模であり、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、連結財務諸表に与える影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため持分法の適用から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

(イ) 商品及び製品

主として総平均法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(ロ) 原材料及び貯蔵品

主として総平均法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(ハ) 仕掛品

主として総平均法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(ニ) 未成工事支出金

個別法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

デリバティブ

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法）

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

工具、器具及び備品 5～6年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、ソフトウェアは以下によっております。

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年6月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金

一部の連結子会社では、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務見込額に基づき計上しております。また、一部の連結子会社については、簡便法を採用しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間（9年～12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することにしております。

製品保証引当金

一部の連結子会社では、販売された製品の保証に伴う費用の支出に備えるため、過去の発生実績率に基づき計上しております。

受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における受注契約に係る損失見込額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

その他の工事

工事完成基準

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、当連結会計年度末の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債については当連結会計年度末の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用については期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、為替変動リスクのヘッジについては振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約

ヘッジ対象

輸出入による外貨建債権債務

ヘッジ方針

為替変動リスクの低減のため、対象債権債務及び将来発生する対象債権債務の範囲内でヘッジを行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

決算期末にヘッジ手段とヘッジ対象の内容について見直しを行い、有効性を評価しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれん及び平成21年6月30日以前に発生した負ののれんの償却については、20年以内のその効果の及ぶ期間にわたって、定額法により規則的に償却しております。ただし、金額に重要性が乏しい場合には、当該のれんが発生した年度の損益としております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

連結納税制度の適用

当社及び一部の連結子会社について、連結納税制度を適用しております。

【表示方法の変更】

（連結貸借対照表）

1. 前連結会計年度において独立掲記しておりました「流動資産」の「未収還付法人税等」及び「未収入金」は重要性が低下したため、当連結会計年度より「流動資産」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。  
この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「未収還付法人税等」に表示していた389百万円及び「未収入金」に表示していた263百万円は、「流動資産」の「その他」として組み替えております。
2. 前連結会計年度において「流動資産」の「その他」に含めていた「前払費用」は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。  
この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において「流動資産」の「その他」に含めていた123百万円は、「流動資産」の「前払費用」として組み替えております。
3. 前連結会計年度において独立掲記しておりました「無形固定資産」の「特許権」は重要性が低下したため、当連結会計年度より「無形固定資産」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。  
この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「無形固定資産」の「特許権」に表示していた28百万円は、「無形固定資産」の「その他」として組み替えております。

4. 前連結会計年度において独立掲記しておりました「投資その他の資産」の「敷金及び保証金」「破産更生債権等」「長期預金」は重要性が低下したため、当連結会計年度より「投資その他の資産」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」の「敷金及び保証金」に表示していた152百万円、「破産更生債権等」に表示していた123百万円、「長期預金」に表示していた100百万円は、「投資その他の資産」の「その他」として組み替えております。

5. 前連結会計年度において独立掲記しておりました「流動負債」の「預り金」及び「前受収益」は重要性が低下したため、当連結会計年度より「流動負債」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「預り金」に表示していた74百万円及び「前受収益」に表示していた91百万円は、「流動負債」の「その他」として組み替えております。

6. 前連結会計年度において独立掲記しておりました「固定負債」の「長期未払金」及び「預り敷金保証金」は重要性が低下したため、当連結会計年度より「固定負債」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定負債」の「長期未払金」に表示していた214百万円及び「預り敷金保証金」に表示していた40百万円は、「固定負債」の「その他」として組み替えております。

#### (連結損益計算書)

1. 前連結会計年度において独立掲記しておりました「販売費及び一般管理費」の「減価償却費」「地代家賃」「のれん償却額」「貸倒引当金繰入額」は重要性が低下したため、当連結会計年度より「販売費及び一般管理費」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「販売費及び一般管理費」の「減価償却費」に表示していた214百万円、「地代家賃」に表示していた228百万円、「のれん償却額」に表示していた163百万円、「貸倒引当金繰入額」に表示していた11百万円は、「販売費及び一般管理費」の「その他」として組み替えております。

2. 前連結会計年度において「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取賃貸料」は営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に含めていた35百万円は、「営業外収益」の「受取賃貸料」として組み替えております。

3. 前連結会計年度において「営業外費用」の「その他」に含めていた「賃貸費用」は営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に含めていた4百万円は、「営業外費用」の「賃貸費用」として組み替えております。

4. 前連結会計年度において「特別損失」の「その他」に含めていた「投資有価証券売却損」は特別損失の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別損失」の「その他」に含めていた0百万円は、「特別損失」の「投資有価証券売却損」として組み替えております。

#### (連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「前受金の増減額」は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた50百万円は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「前受金の増減額」として組み替えております。

#### 【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1. 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
受取手形	- 百万円	76百万円
支払手形	- 百万円	24百万円

2. 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
関係会社株式	178百万円	179百万円

3. 損失が見込まれる工事契約に係るたな卸資産と受注損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、受注損失引当金に対応する額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
未成工事支出金	45百万円	60百万円

4. 偶発債務

(1) 保証債務

マンション管理組合等のリース債務に対する債務保証

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
マンション管理組合等(2件)	0百万円	0百万円

従業員の借入金(住宅資金)に対する債務保証

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
従業員(15名)	15百万円	従業員(13名) 11百万円

(2) 受取手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
受取手形割引高	62百万円	- 百万円
受取手形裏書譲渡高	121百万円	- 百万円

## (連結損益計算書関係)

## 1. 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
研究開発費	590百万円	594百万円

## 2. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
建物及び構築物	0百万円	0百万円
機械装置及び運搬具	0百万円	0百万円
工具、器具及び備品	4百万円	15百万円
計	6百万円	15百万円

## (連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金：

当期発生額	109百万円
組替調整額	92百万円
税効果調整前	17百万円
税効果額	0百万円
その他有価証券評価差額金	17百万円

繰延ヘッジ損益：

当期発生額	0百万円
組替調整額	8百万円
税効果調整前	9百万円
税効果額	3百万円
繰延ヘッジ損益	5百万円

為替換算調整勘定：

当期発生額	3百万円
その他の包括利益合計	26百万円

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	56,590,410	-	-	56,590,410
合計	56,590,410	-	-	56,590,410
自己株式				
普通株式(注)	1,695,568	175,744	-	1,871,312
合計	1,695,568	175,744	-	1,871,312

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加175,744株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得175,000株、単元未満株式の買取り744株による増加であります。



## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年9月29日 定時株主総会	普通株式	439	8	平成22年6月30日	平成22年9月30日
平成23年2月14日 取締役会	普通株式	437	8	平成22年12月31日	平成23年3月10日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年9月29日 定時株主総会	普通株式	437	利益剰余金	8	平成23年6月30日	平成23年9月30日

当連結会計年度(自平成23年7月1日至平成24年6月30日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	56,590,410	-	-	56,590,410
合計	56,590,410	-	-	56,590,410
自己株式				
普通株式(注)	1,871,312	7,353,658	-	9,224,970
合計	1,871,312	7,353,658	-	9,224,970

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加7,353,658株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得7,352,900株、単元未満株式の買取り758株による増加であります。

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年9月29日 定時株主総会	普通株式	437	8	平成23年6月30日	平成23年9月30日
平成24年2月14日 取締役会	普通株式	437	8	平成23年12月31日	平成24年3月12日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年9月27日 定時株主総会	普通株式	378	利益剰余金	8	平成24年6月30日	平成24年9月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	(自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
現金及び預金勘定	9,893百万円	9,012百万円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	-百万円	210百万円
別段預金	19百万円	17百万円
現金及び現金同等物	9,874百万円	8,784百万円

(リース取引関係)

(借主側)

## 1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

## (1) リース資産の内容

有形固定資産

主としてサーバ及びコンピュータ端末機(工具、器具及び備品)であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

## (2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年6月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度(平成23年6月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
建物及び構築物	7	7	0
機械装置及び運搬具	3	3	0
工具、器具及び備品	41	32	9
ソフトウェア	27	23	4
合計	80	66	14

(単位：百万円)

	当連結会計年度(平成24年6月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	33	31	2
ソフトウェア	11	10	0
合計	44	42	2

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	12	2
1年超	2	-
合計	14	2

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い  
 ため、支払利子込み法により算定しております。

支払リース料、減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当連結会計年度 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
支払リース料	16	8
減価償却費相当額	16	8

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
1年内	30	34
1年超	119	94
合計	149	129

(貸主側)

1. ファイナンス・リース取引

(1) リース投資資産の内訳

流動資産

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
リース料債権部分	566	613
見積残存価額部分	-	-
受取利息相当額	29	28
リース投資資産	536	584

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額  
流動資産

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース債権	-	-	-	-	-	-
リース投資資産	151	131	104	76	47	24

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成24年6月30日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース債権	-	-	-	-	-	-
リース投資資産	164	139	112	84	56	27

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産に限定しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、短期貸付金、長期貸付金は顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては取引先ごとに与信管理を徹底し、期日管理や残高管理を行うとともに、貸付先の業績動向や事業の動き等を恒常的に注視し、財務状況を把握しております。なお、主要取引先については与信限度枠の見直しを毎年行っており、設定、改定については担当役員の決裁事項として運用しております。また、外貨建ての売掛金は、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部先物為替予約を利用してヘッジしております。なお、デリバティブは内部管理規程に従い、実需の範囲内で行うこととしております。

投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、定期的に時価を把握し、明細表を作成する等の方法により管理しており、また、その内容が代表取締役へ報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、流動性リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループ各社において、毎月資金繰計画を作成する等の方法により管理しており、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成23年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	9,893	9,893	-
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金	4,559 32		
	4,527	4,527	-
(3) 短期貸付金	435	435	-
(4) 投資有価証券 其他有価証券	1,220	1,220	-
(5) 長期貸付金	218	218	-
資産計	16,295	16,295	-
支払手形及び買掛金	4,021	4,021	-
負債計	4,021	4,021	-
デリバティブ取引			
(1) ヘッジ会計が適用されていないもの	18	18	-
(2) ヘッジ会計が適用されているもの	8	8	-
デリバティブ取引計	27	27	-

受取手形及び売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度（平成24年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	9,012	9,012	-
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金	5,201 37		
	5,164	5,164	-
(3) 短期貸付金	623	623	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	944	944	-
(5) 長期貸付金	103	103	-
資産計	15,848	15,848	-
支払手形及び買掛金	2,849	2,849	-
負債計	2,849	2,849	-
デリバティブ取引			
(1) ヘッジ会計が適用されていないもの	11	11	-
(2) ヘッジ会計が適用されているもの	0	0	-
デリバティブ取引計	10	10	-

受取手形及び売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

#### 資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 短期貸付金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券の時価については、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(5) 長期貸付金

長期貸付金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の貸付を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

#### 負債

支払手形及び買掛金

支払手形及び買掛金は短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

取引金融機関から提示された価格によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
非上場株式	1,161	1,378

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度（平成23年6月30日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	9,893	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,559	-	-	-
短期貸付金	435	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券（社債）	-	756	-	-
(2) その他	-	100	-	-
長期貸付金	16	174	27	-
合計	14,904	1,030	27	-

当連結会計年度（平成24年6月30日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	9,012	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,201	-	-	-
短期貸付金	623	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券（社債）	688	-	-	-
(2) その他	360	40	-	-
長期貸付金	9	65	27	-
合計	15,895	105	27	-

4. リース債務の連結決算日後の返済予定額  
連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

## 1. その他有価証券

前連結会計年度(平成23年6月30日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	850	768	82
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	850	768	82
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	255	382	127
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	114	135	21
	小計	370	518	148
	合計	1,220	1,286	65

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 1,161百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。



当連結会計年度（平成24年6月30日）

	種類	連結貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	692	671	21
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	692	671	21
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	252	283	30
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	252	283	30
	合計	944	954	9

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額 1,378百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	176	17	0
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	35	27	-
合計	212	44	0

当連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	103	29	1
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	131	-	26
合計	235	29	28

## 3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、投資有価証券について127百万円（その他有価証券の株式127百万円）減損処理を行っております。

当連結会計年度において、投資有価証券について93百万円（その他有価証券の株式93百万円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、その他有価証券で時価のある有価証券については、期末における時価が取得原価と比べて50%以上下落したその他有価証券についてはすべて減損処理を行い、30%以上50%未満下落しているその他有価証券については時価の推移及び発行会社の財政状態等を勘案して回復可能性を判断し、回復する見込があると認められた場合を除き減損処理を行っております。

また、時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券については、期末における発行会社の財政状態等を勘案して回復可能性を判断し、回復する見込があると認められた場合を除き減損処理を行っております。

## （デリバティブ取引関係）

重要性が低いため、記載を省略しております。

## （退職給付関係）

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定給付型及び確定拠出型の退職年金制度を採用しております。

なお、一部の連結子会社は、平成23年4月に税制適格退職年金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行しております。

## 2. 退職給付債務及びその内訳

	前連結会計年度 （平成23年6月30日）	当連結会計年度 （平成24年6月30日）
(1) 退職給付債務（百万円）	917	953
(2) 未積立退職給付債務（百万円）	917	953
(3) 未認識数理計算上の差異（百万円）	140	107
(4) 連結貸借対照表計上額純額）(2) + (3)（百万円）	776	845
(5) 退職給付引当金（百万円）	776	845

（注）一部の国内連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

## 3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当連結会計年度 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
(1) 勤務費用(百万円)	98	67
(2) 利息費用(百万円)	26	17
(3) 期待運用収益(減算)(百万円)	1	-
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	43	30
小計	166	115
(5) 確定拠出年金制度への移行に伴う損益(百万円)	184	-
(6) 退職給付制度終了益(百万円)	29	-
(7) その他(百万円)	46	82
計	368	197

(注) 1. 簡便法を採用している国内連結子会社の退職給付費用は、「(1) 勤務費用」に計上しております。  
2. その他は、確定拠出年金への掛金支払額等であります。

## 4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

## (1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

## (2) 割引率

前連結会計年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当連結会計年度 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
2.0%	2.0%

## (3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当連結会計年度 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
0.2%	- %

## (4) 数理計算上の差異の処理年数

9～12年(発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することにしております。)

## (ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
<b>繰延税金資産(流動)</b>		
未払事業税	36百万円	63百万円
賞与引当金	43百万円	42百万円
製品保証引当金	8百万円	5百万円
たな卸資産評価減	98百万円	83百万円
前受保守料	66百万円	58百万円
その他有価証券評価差額金	- 百万円	105百万円
税務上の繰越欠損金	106百万円	61百万円
その他	90百万円	92百万円
繰延税金資産(流動)小計	449百万円	512百万円
評価制引当額	20百万円	17百万円
繰延税金資産(流動)合計	429百万円	495百万円
繰延税金負債(流動)との相殺額	3百万円	4百万円
繰延税金資産(流動)の純額	426百万円	490百万円
<b>繰延税金負債(流動)</b>		
未収事業税	0百万円	0百万円
繰延ヘッジ損益	3百万円	- 百万円
その他	- 百万円	4百万円
繰延税金負債(流動)合計	3百万円	4百万円
繰延税金資産(流動)との相殺額	3百万円	4百万円
繰延税金負債(流動)の純額	- 百万円	- 百万円
<b>繰延税金資産(固定)</b>		
退職給付引当金	315百万円	317百万円
貸倒引当金	66百万円	48百万円
前受保守料	137百万円	132百万円
減損損失	617百万円	508百万円
投資有価証券評価損	198百万円	123百万円
その他有価証券評価差額金	125百万円	22百万円
税務上の繰越欠損金	109百万円	362百万円
その他	265百万円	199百万円
繰延税金資産(固定)小計	1,836百万円	1,715百万円
評価性引当額	1,061百万円	1,088百万円
繰延税金資産(固定)合計	775百万円	626百万円
繰延税金負債(固定)との相殺額	54百万円	80百万円
繰延税金資産(固定)の純額	720百万円	545百万円
<b>繰延税金負債(固定)</b>		
のれん償却	75百万円	95百万円
その他有価証券評価差額金	- 百万円	5百万円
その他	0百万円	9百万円
繰延税金負債(固定)合計	75百万円	111百万円
繰延税金資産(固定)との相殺額	54百万円	80百万円
繰延税金負債(固定)の純額	21百万円	30百万円

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当連結会計年度 (平成24年6月30日)
法定実効税率	40.69%	40.69%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.00%	0.94%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.22%	0.12%
住民税均等割	2.04%	1.73%
評価性引当額の増減額	3.67%	4.51%
のれん及び負ののれん償却額	4.71%	2.80%
連結子会社の税率差異	1.31%	0.15%
連結納税による影響額	3.72%	0.10%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	- %	2.10%
その他	1.41%	0.17%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.70%	37.62%

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.69%から、平成24年7月1日に開始する連結会計年度から平成26年7月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.01%に、平成27年7月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.64%となります。この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は90百万円減少し、法人税等調整額は80百万円増加しております。

## (資産除去債務関係)

重要性が低いため、記載を省略しております。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、報告セグメントごとに取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

当社グループは、製品・サービスの特性に基づき、事業セグメントを集約したうえで、「セキュリティ機器」、「カード機器及びその他事務用機器」、「保守サービス」、「情報機器」、「計測機器及び環境試験装置」、「設計事業」、「リース及び割賦事業」の7つを報告セグメントとしております。

「セキュリティ機器」は、セキュリティシステム機器の開発・製造及び販売を行っております。

「カード機器及びその他事務用機器」は、カード発行機器（病院向けカードシステム、金融向けカードシステム）及びその他事務用機器の開発・製造及び販売を行っております。

「保守サービス」は、セキュリティ機器、カード機器等の保守サービスを行っております。

「情報機器」は、プロッタやスキャナ等のコンピュータ周辺機器の開発・製造及び販売、保守サービス等を行っております。

「計測機器及び環境試験装置」は、計測機器及び環境試験装置の開発・製造及び販売等を行っております。

「設計事業」は、構造設計、耐震診断を主体とした建築設計事業等を行っております。

「リース及び割賦事業」は、リース及び割賦の仲介業務を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自平成22年7月1日至平成23年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)1	合計	調整額 (注)2 3	連結 財務諸表 計上額 (注)4
	セキュリ ティ機器	カード機 器及びそ の他事務 用機器	保守 サービス	情報機器	計測機器 及び環境 試験装置	設計事業	リース 及び 割賦事業	計				
売上高												
外部顧客へ の売上高	5,371	2,405	1,819	6,816	2,161	3,896	2,432	24,903	1,102	26,006	-	26,006
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	-	-	84	32	-	-	28	144	3	148	148	-
計	5,371	2,405	1,903	6,848	2,161	3,896	2,460	25,048	1,105	26,154	148	26,006
セグメント 利益	738	390	214	499	333	451	130	2,758	48	2,806	173	2,980
セグメント 資産	3,003	2,581	724	4,918	1,694	2,118	3,874	18,916	522	19,439	12,374	31,814
その他の項目												
減価償却費	27	35	16	85	41	39	-	246	4	250	75	326
有形固定資 産及び無形 固定資産の 増加額	8	8	2	77	26	49	-	174	-	174	48	223

当連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント								その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2 3	連結 財務諸表 計上額 (注) 4
	セキュリ ティ機器	カード機 器及びそ の他事務 用機器	保守 サービス	情報機器	計測機器 及び環境 試験装置	設計事業	リース 及び 割賦事業	計				
売上高												
外部顧客への売上高	5,887	2,717	1,698	6,916	1,984	4,315	4,100	27,619	536	28,156	-	28,156
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	2	55	52	3	-	25	139	0	139	139	-
計	5,887	2,720	1,753	6,969	1,987	4,315	4,126	27,759	536	28,296	139	28,156
セグメント利益	962	589	176	696	200	656	129	3,410	13	3,424	117	3,542
セグメント資産	2,456	2,502	458	5,167	1,758	2,274	3,701	18,319	483	18,802	10,969	29,772
その他の項目												
減価償却費	29	35	14	105	32	41	-	259	2	262	73	335
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	49	26	20	163	41	73	-	375	0	375	5	380

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カードリーダーの製造・販売及びソフトウェアの開発・販売等を行っております。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

セグメント利益

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	78	60
全社費用	95	56
合計	173	117

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金等であります。

4. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	その他	合計
21,667	1,871	1,024	1,442	26,006

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱UFJリース株式会社	3,044	セキュリティ機器

当連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	その他	合計
23,532	2,247	1,018	1,358	28,156

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱UFJリース株式会社	3,182	セキュリティ機器

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。



## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日）

（単位：百万円）

	セキュリティ機器	カード機器及びその他事務用機器	保守サービス	情報機器	計測機器及び環境試験装置	設計事業	リース及び割賦事業	その他（注）	全社・消去	合計
当期償却額	-	18	-	34	-	109	-	0	-	163
当期末残高	-	176	-	105	-	610	-	1	-	894

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カードリーダーの製造・販売及びソフトウェアの開発・販売等を行っております。

なお、平成21年6月30日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	セキュリティ機器	カード機器及びその他事務用機器	保守サービス	情報機器	計測機器及び環境試験装置	設計事業	リース及び割賦事業	その他	全社・消去（注）	合計
当期償却額	-	-	-	-	-	-	-	-	419	419
当期末残高	-	-	-	-	-	-	-	-	328	328

（注）1．負ののれんの当期償却額419百万円は、各報告セグメントに配分していない全社収益であります。

2．負ののれんの当期末残高328百万円は、各報告セグメントに配分していない全社負債であります。

当連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

（単位：百万円）

	セキュリティ機器	カード機器及びその他事務用機器	保守サービス	情報機器	計測機器及び環境試験装置	設計事業	リース及び割賦事業	その他（注）	全社・消去	合計
当期償却額	-	18	-	33	-	109	-	0	-	161
当期末残高	-	158	-	74	-	501	-	0	-	735

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カードリーダーの製造・販売及びソフトウェアの開発・販売等を行っております。

なお、平成21年6月30日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	セキュリティ機器	カード機器及びその他事務用機器	保守サービス	情報機器	計測機器及び環境試験装置	設計事業	リース及び割賦事業	その他	全社・消去（注）	合計
当期償却額	-	-	-	-	-	-	-	-	317	317
当期末残高	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10

（注）1．負ののれんの当期償却額317百万円は、各報告セグメントに配分していない全社収益であります。

2．負ののれんの当期末残高10百万円は、各報告セグメントに配分していない全社負債であります。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

該当事項はありません。

## (企業結合等関係)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当連結会計年度 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり純資産額	415.93円	438.38円
1株当たり当期純利益金額	41.16円	44.74円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当連結会計年度 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
当期純利益(百万円)	2,254	2,406
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	2,254	2,406
期中平均株式数(千株)	54,773	53,794

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	224	260	-	-
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	512	554	-	平成26年～平成32年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	737	814	-	-

(注) 1. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
リース債務	197	149	110	68	28

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	7,291	13,965	22,208	28,156
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	909	1,837	3,286	3,857
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	589	1,134	2,100	2,406
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	10.77	20.73	38.38	44.74

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	10.77	9.96	17.65	6.00

決算日後の状況

特記すべき事項はありません。

2【財務諸表等】  
 (1)【財務諸表】  
 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当事業年度 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	638	628
売掛金	50	43
前払費用	1	1
繰延税金資産	5	2
未収還付法人税等	389	-
短期貸付金	285	36
未収入金	409	857
その他	0	1
流動資産合計	1,779	1,571
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品	0	0
減価償却累計額	0	0
工具、器具及び備品（純額）	0	0
有形固定資産合計	0	0
無形固定資産		
ソフトウェア	13	25
ソフトウェア仮勘定	15	-
無形固定資産合計	28	25
投資その他の資産		
投資有価証券	822	738
関係会社株式	20,753	20,753
長期貸付金	398	136
繰延税金資産	23	-
投資その他の資産合計	21,997	21,627
固定資産合計	22,026	21,653
資産合計	23,806	23,224
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	600	1,250
未払金	509	63
未払費用	2	6
未払法人税等	16	512
未払消費税等	7	2
預り金	3	4
賞与引当金	5	5
その他	0	0
流動負債合計	1,144	1,845
固定負債		
長期借入金	-	1,250
繰延税金負債	-	4
その他	3	4
固定負債合計	3	1,258

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当事業年度 (平成24年6月30日)
負債合計	1,147	3,103
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金		
資本準備金	1,045	1,045
その他資本剰余金	14,742	14,742
資本剰余金合計	15,787	15,787
利益剰余金		
利益準備金	204	204
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,919	3,840
利益剰余金合計	3,124	4,045
自己株式	1,221	4,721
株主資本合計	22,690	20,111
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	31	9
評価・換算差額等合計	31	9
純資産合計	22,658	20,120
負債純資産合計	23,806	23,224

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当事業年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
営業収益	2,478	2,263
売上総利益	2,478	2,263
一般管理費		
役員報酬	84	84
給与及び手当	182	146
賞与	34	36
法定福利費	33	27
顧問料	34	35
支払手数料	40	38
その他	64	56
一般管理費合計	474	425
営業利益	2,003	1,837
営業外収益		
受取利息	17	8
受取配当金	28	34
雑収入	5	5
営業外収益合計	51	48
営業外費用		
支払利息	24	6
その他	-	0
営業外費用合計	24	6
経常利益	2,031	1,879
特別利益		
投資有価証券売却益	0	24
特別利益合計	0	24
特別損失		
投資有価証券評価損	-	80
災害による損失	0	-
特別損失合計	0	80
税引前当期純利益	2,030	1,823
法人税、住民税及び事業税	53	24
法人税等調整額	2	2
法人税等合計	50	27
当期純利益	1,979	1,796

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当事業年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	5,000	5,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,000	5,000
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	1,045	1,045
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,045	1,045
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	14,742	14,742
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	14,742	14,742
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	15,787	15,787
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	15,787	15,787
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	204	204
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	204	204
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	1,816	2,919
当期変動額		
剰余金の配当	876	875
当期純利益	1,979	1,796
当期変動額合計	1,102	920
当期末残高	2,919	3,840
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	2,021	3,124
当期変動額		
剰余金の配当	876	875
当期純利益	1,979	1,796
当期変動額合計	1,102	920
当期末残高	3,124	4,045

	前事業年度 (自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月30日)	当事業年度 (自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日)
<b>自己株式</b>		
当期首残高	1,173	1,221
当期変動額		
自己株式の取得	48	3,500
当期変動額合計	48	3,500
当期末残高	1,221	4,721
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	21,635	22,690
当期変動額		
剰余金の配当	876	875
当期純利益	1,979	1,796
自己株式の取得	48	3,500
当期変動額合計	1,054	2,579
当期末残高	22,690	20,111
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	222	31
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	190	41
当期変動額合計	190	41
当期末残高	31	9
<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期首残高	222	31
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	190	41
当期変動額合計	190	41
当期末残高	31	9
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	21,413	22,658
当期変動額		
剰余金の配当	876	875
当期純利益	1,979	1,796
自己株式の取得	48	3,500
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	190	41
当期変動額合計	1,245	2,538
当期末残高	22,658	20,120



【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法（ただし、取得価額が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却によっております。）

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

3. 引当金の計上基準

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

【表示方法の変更】

（貸借対照表）

前事業年度において「流動負債」の「その他」に含めていた「未払消費税等」は重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において「流動負債」の「その他」に含めていた7百万円は、「流動負債」の「未払消費税等」として組み替えております。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当事業年度 (平成24年6月30日)
流動資産		
売掛金	50百万円	43百万円
短期貸付金	285百万円	36百万円
未収入金	409百万円	857百万円
長期貸付金	398百万円	136百万円
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	600百万円	1,250百万円
未払金	485百万円	43百万円
未払費用	0百万円	5百万円
固定負債		
長期借入金	-百万円	1,250百万円

(損益計算書関係)

関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当事業年度 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
営業収益	2,478百万円	2,263百万円
受取利息	17百万円	7百万円
支払利息	24百万円	6百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年7月1日至平成23年6月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式(注)	1,695,568	175,744	-	1,871,312

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加175,744株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得175,000株、単元未満株式の買取り744株による増加であります。

当事業年度(自平成23年7月1日至平成24年6月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式(注)	1,871,312	7,353,658	-	9,224,970

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加7,353,658株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得7,352,900株、単元未満株式の買取り758株による増加であります。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式20,753百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式20,753百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当事業年度 (平成24年6月30日)
繰延税金資産		
未払事業税	2百万円	- 百万円
賞与引当金	2百万円	2百万円
関係会社株式評価損	34百万円	29百万円
その他有価証券評価差額金	21百万円	- 百万円
その他	2百万円	2百万円
繰延税金資産小計	63百万円	34百万円
評価性引当額	34百万円	30百万円
繰延税金資産合計	28百万円	4百万円
繰延税金負債		
未収事業税	- 百万円	0百万円
その他有価証券評価差額金	- 百万円	5百万円
繰延税金負債合計	- 百万円	5百万円
繰延税金資産及び繰延税金負債の純額	28百万円	1百万円

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当事業年度 (平成24年6月30日)
法定実効税率	40.69%	40.69%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.08%	0.12%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	38.40%	39.53%
住民税均等割	0.18%	0.20%
その他	0.04%	0.00%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	2.51%	1.48%

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.69%から、平成24年7月1日に開始する事業年度から平成26年7月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.01%に、平成27年7月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.64%となります。この税率変更による影響は軽微であります。

## (企業結合等関係)

該当事項はありません。

## (資産除去債務関係)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当事業年度 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり純資産額	414.09円	424.79円
1株当たり当期純利益金額	36.15円	33.39円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当事業年度 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
当期純利益(百万円)	1,979	1,796
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,979	1,796
期中平均株式数(千株)	54,773	53,794

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
		(株)日本電計 T O A(株)	1,090,700 72,000	692 45
		計	1,162,700	738

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引 当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
工具、器具及び備品	0	0	-	0	0	0	0
有形固定資産計	0	0	-	0	0	0	0
無形固定資産							
ソフトウェア	17	17	-	34	9	5	25
ソフトウェア仮勘定	15	-	15	-	-	-	-
無形固定資産計	32	17	15	34	9	5	25

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
賞与引当金	5	5	5	-	5

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## 流動資産

## (イ) 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	-
預金	
普通預金	610
別段預金	17
小計	628
合計	628

## (ロ) 売掛金

## 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)ドッドウエル ビー・エム・エス	19
(株)あい設計	12
グラフィック(株)	9
あいエンジニアリング(株)	1
(株)ニューロン	0
(株)U S T A G E	0
合計	43

## 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日) (A) + (D)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(B)
50	968	974	43	95.7	366
					17.7

(注) 当期発生高には、消費税等が含まれております。

## 固定資産

## 関係会社株式

区分	金額(百万円)
(株)ドッドウエル ビー・エム・エス	12,762
グラフィック(株)	6,946
あいエンジニアリング(株)	806
(株)ニューロン	190
(株)あい設計	47
合計	20,753

## 流動負債

## 1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)ドッドウエル ビー・エム・エス	750
グラフィック(株)	500
合計	1,250

## 固定負債

## 長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)ドッドウエル ビー・エム・エス	750
グラフィック(株)	500
合計	1,250

## (3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	7月1日から6月30日まで
定時株主総会	9月中
基準日	6月30日
剰余金の配当の基準日	12月31日 6月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・買増手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.aiholdings.co.jp">http://www.aiholdings.co.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、以下の権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第5期）（自平成22年7月1日至平成23年6月30日）平成23年9月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年9月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第6期第1四半期）（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）平成23年11月11日関東財務局長に提出

（第6期第2四半期）（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）平成24年2月14日関東財務局長に提出

（第6期第3四半期）（自平成24年1月1日至平成24年3月31日）平成24年5月15日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年9月30日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成24年5月18日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書であります。

(5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自平成24年5月1日至平成24年5月31日）平成24年6月13日関東財務局長に提出



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 9月27日

あいホールディングス株式会社  
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	戸田 栄
指定社員 業務執行社員	公認会計士	友田 和彦

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているあいホールディングス株式会社の平成23年7月1日から平成24年6月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、あいホールディングス株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、あいホールディングス株式会社の平成24年6月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、あいホールディングス株式会社が平成24年6月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年9月27日

あいホールディングス株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	戸田 栄
指定社員 業務執行社員	公認会計士	友田 和彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているあいホールディングス株式会社の平成23年7月1日から平成24年6月30日までの第6期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、あいホールディングス株式会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。